



【本号のトピックス】

認知症患者の義歯診療ガイドライン作成のための最終パネル会議開催！／
第29回学術大会報告／第5回歯科衛生士関連委員会主催セミナー報告／
理事のご挨拶／専門医活動レポート／委員会だより／支部だより ほか

認知症患者の義歯診療ガイドライン作成のための最終パネル会議開催！

ガイドライン委員会前幹事 矢儀一智

5月23日午後、東京歯科大学水道橋校舎本館にて、認知症患者の義歯診療ガイドライン作成のための最終パネル会議が開催されました。本学会では初の企画となったこのパネル会議では、2017年度から本学会ガイドライン委員会を中心に作成が開始された10個の義歯診療に関する臨床的疑問とそれらに対する推奨文が公開され、パネリストとして参加した義歯患者、認知症患者家族、介護士から意見聴取が行われました。

会場では歯科関連企業、出版・報道関係者約40名が聴衆として3時間にわたる協議を見つめるなか、ガイドライン委員からそれぞれの推奨文にいたった経緯について解説が行われた後、認知症患者の義歯診療について現場で生じている問題や要望を含めた議論が積極的に交わされました。パネリストからは、家族として義歯を作ることが十分可能と考えられるにもかかわらず、患者が認知症とわかると義歯を作ってもらえなかった事例が紹介され、家族や介護職からみた認知症患者の義歯診療における歯科医療側の取り組み方への要望が出されました。また介護職の立場から「お口の衛生管理のことは排泄の介助よりも家族の協力が得にくく見過ごされやすい、家族が介護しているということと家族が患者の入れ歯を取り外して管理できるということは別であることが多い」などの介護現場の現実が紹介され、認知症患者の口腔衛生管理を担っていくべき家族や介護職を含めた介護者に対する口腔衛生管理の知識・技術の普及活動が不足しているとの意見が出されました。これらの協議内容は、認知症高齢者の健康な口腔を維持するための歯科医療システム構築上の課題を現場の視点で提示するものだったと思います。

末筆ではございますが、パネル会議でご意見を賜りましたパネリストの方々、ガイドライン作成に携わっていただきました先生方、また当日の会場設営に多大なご協力をいただきました東京歯科大学老年歯科補綴学講座教室員ならびに学会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。



会見に応じる櫻井 薫前理事長



主な関係各位での集合写真

日本老年歯科医学会第29回学術大会が盛会裡に終了

第29回学術大会準備委員長 北川 昇

さる2018年6月22日・23日の2日間、きゅりあん（品川区立総合区民会館）にて、「高齢者の口腔医学」というメインタイトルで日本老年歯科医学会総会・第29回学術大会が開催されました。

今回は特別講演、教育講演2演題、シンポジウム11演題、さらに、課題口演10演題、一般口演52演題、優秀ポスター発表15演題、一般ポスター発表128演題という非常に充実した内容でした。メインシンポジウムは日本有病者歯科医療学会、日本障害者歯科学会と本学会との3学会合同シンポジウム「脳卒中患者の老年口腔医学」で他学会とリンクしたグローバルな内容で好評でした。また、日台老年歯科医学会合同シンポジウム「高齢者のMRONJ（薬剤関連顎骨壊死）の最新像」や日本歯科医学教育学会共催シンポジウム「超高齢社会に対応できる臨床能力の養成プログラムを考えるーICTを活用した共通の準備教育と多様な臨床実習の実施」が開催され、本学会の国内外における幅広い分野の活動と連携を改めて認識することができました。

特別講演は「人生の最終章を輝かせる緩和ケア～人生的ケア、死から生といのちを考える～」というタイト

ルで、高宮有介先生（昭和大学医学部医学教育学）がご講演されました。先生は医師として緩和ケアに携わって30年以上、実際に多くの患者さんとの出会いとともに、いくつもの別れを経験されています。そのなかで、「この仕事を続けてきた原動力は、亡くなった患者さんが遺した言葉や行動である。それらは大きな贈り物となっている。末期がん患者というと弱々しいイメージがあるが、皆、潜在的な凄いエネルギーをもっている。その力を引き出すというおこがましいが、その人自身のいのちの輝きを支えることができるのは、緩和ケアに携わる者の遣り甲斐でもある」という言葉はたいへん重く、実際の臨床経験からのお話は心に響く内容でした。今回の大会にふさわしく素晴らしい講演だったと思います。

最終的には約1,900人の方々にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

最後になりましたが、ご参加、ご協力いただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、会場の混雑などでたいへんご不便をおかけしましたことを心から深くお詫び申し上げます。



佐藤裕二大会長と櫻井 薫前理事長



メインシンポジウムの先生方



会員懇親会での乾杯の瞬間



特別講演講師の高宮有介先生



日台老年歯科医学会合同シンポジウム



会員懇親会会場にて（大会校の皆様）



多職種連携シンポジウムの先生方



学術シンポジウムの先生方



日本歯科医学会
会長賞受賞記念
祝賀会での森戸
光彦名誉会員と
菅 武雄先生

日本老年歯科医学会第 29 回学術大会・シンポジウム開催報告

※学術大会でのシンポジウムの一部の内容をご紹介します

【メインシンポジウム開催報告】

大会の 1 日目に「脳卒中患者の老年口腔医学」というテーマでメインシンポジウムが開催されました。岩淵博史先生からは脳卒中患者の口腔管理と全身管理や摂食・嚥下障害などさまざまな障害への対応について、平塚正雄先生からは脳卒中患者の ADL 能力に準じた歯科的対応について、古屋純一先生からは多職種連携・地域連携と脳卒中患者の口腔機能管理の関係についてご講演いただきました。その後のディスカッションでも活発な討論が行われました。(磯部明夫)

【日台老年歯科医学会合同シンポジウム開催報告】

台湾老年歯科医学会 (TAGD) との交流協定を結んで以来、2 回目の合同シンポジウムとなる今回は、講師に岸本裕充先生 (兵庫医科大学) と、新しく TAGD の会長に就任された鄧 延通先生 (高雄医学大学) のお 2 人をお迎えし、「高齢者の MRONJ (薬剤関連顎骨壊死) の最新像」のテーマにて行われました。MRONJ は両国の高齢者歯科医療で共通の懸念事項であるだけに、大ホールに多くの参加者を集め、最新情報をコンパクトにまとめた知識共有と国際交流の有意義なシンポジウムとなりました。(小野高裕)

【多職種連携シンポジウム開催報告】

大会 2 日目、「地域包括ケアシステムに関わるための第一歩 一成功と失敗に学ぶ多職種連携」をテーマに開催されました。座長に高野直久先生 (日本歯科医師会) と渡部芳彦先生 (委員)、基調講演に青木 仁先生 (厚生労働省)、演者に有松ひとみ先生 (大分県歯科衛生士会)、細野 純先生 (細野歯科クリニック / 日本歯科医師会)、前田佳予子先生 (日本在宅栄養管理学会) をお迎えし、活発な議論が行われ、盛会のうちに終了しました。

(岩佐康行)

【学術シンポジウム開催報告】

2016 年に本学会から発表された「口腔機能低下症」は、本年 4 月に保険収載を果たしました。本シンポジウムにおいて、飯島勝矢先生からはオーラルフレイルと口腔機能低下症を取り巻く環境を踏まえつつどのように国民に浸透させていくかのお話をいただきました。また、上田貴之委員、津賀一弘委員、松尾浩一郎委員により、現行の評価基準の再評価と今後の議論の方向性を示しつつ議論しました。今後、「口腔機能低下症」が適切に認識され、患者さんの機能回復に役立つよう、会員の皆様のご協力をお願いいたします。(金澤 学)

第 5 回歯科衛生士関連委員会主催セミナー開催報告

歯科衛生士関連委員会委員長 石黒 幸枝

2018 年 6 月 24 日 (日) に AP 品川にて、セミナー「歯科衛生研究の基礎」と「医療統計の基礎」を開催しました。倫理審査委員会委員長の山崎 裕先生より歯科衛生士として知っておくべき研究倫理と利益相反についてのご講義を、午後からは演習編として、那須郁夫先生より統計の基礎についてのご講義と統計分析の実践指導をしていただきました。そのほか武井典子日本歯科衛生士会会長からの講義、小原由紀委員からのテーマの立て方などに関する講義があり、内容の充実したセミナーとなりました。



セミナーの様子

2018 年度老年歯科医学研究助成対象研究紹介

老年歯科医学における基礎、臨床、疫学研究において、新知見の得られる可能性をもつ革新的な研究プロジェクトの発展促進を図ることを目的として、2018 年度より老年歯科医学研究助成制度がスタートいたしました。

会員より多くの研究課題を提案いただき、2018～2019 年度助成対象研究を 2 件決定いたしました。

研究成果を大いに期待しております。

- ・松尾浩一郎 (藤田保健衛生大学医学部歯科・口腔外科)、他
「回復期リハビリテーション病棟における口腔機能低下症への介入効果」

- ・梅本丈二 (福岡大学医学部歯科口腔外科学教室)、他
「パーキンソン病患者の嚥下機能と服薬状況に関する調査研究」



左から松尾浩一郎先生、櫻井 薫前理事長、梅本丈二先生

理事のご挨拶



2016～2017年度 理事
学会運営へのご協力、ありがとうございました。



2018～2019年度 理事
2年間どうぞよろしく願い申し上げます。

2018年度各賞受賞者紹介

【老年歯科医学賞（渡邊郁馬賞）】

「Maximal voluntary tongue pressure is decreased in Japanese frail elderly persons」 Kazuhiro Tsuga, Mineka Yoshikawa, Hiroshi Oue, Yohei Okazaki, Hirokazu Tsuchioka, Mariko Maruyama, Mitsuyoshi Yoshida, Yasumasa Akagawa. Gerodontology 2012; 29: e1078 - e1085 doi: 10.1111/j.1741-2358.2011.00615.x

【優秀奨励論文賞（ライオンアワード）】

高城大輔（神奈川歯科大学全身管理高齢者歯科）
太田 緑（東京歯科大学老年歯科補綴学講座）

【優秀課題口演賞】

佐川敬一郎（日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック）
釘宮嘉浩（東京歯科大学老年歯科補綴学講座）

【優秀ポスター賞】

小原由紀（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔健康教育学分野）
松原ちあき（東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔機能管理学分野）
木村年秀（まんのう町国民健康保険造田歯科診療所）



受賞された先生方、
おめでとうございます。

専門医活動レポート

老年歯科専門医の活動レポート

花形歯科医院 花形哲夫

老年歯科専門医は、高齢者への歯科診療を中心とした臨床活動のほかに、自治体の高齢者健康増進事業へ積極的にかかわることも重要な使命と考えております。そこで、私がかかわる山梨県後期高齢者健康増進事業（後期高齢者医療広域連合）について報告します。

超高齢社会のなか、平成 29 年度高齢者福祉基礎調査によると、高齢化率は 28.8%、全国平均を上回っています。高齢者人口は 242,065 人でそのうち後期高齢者は 51.8%です。この講演事業では「西桂健康福祉まつり」において、「おいしく食べる」を演題として、歯科疾患が全身に及ぼす影響、加齢に伴う口腔機能の変化、オーラルフレイル・口腔機能低下症について理解していただき、予防対策として「健口体操」のDVDを使い口の体操を行いました。100名ほどの出席者でした。参加者のアンケートから「歯科疾患が全身疾患へ影響することや、摂食嚥下・咀嚼などの口腔機能について理解できた」という意見をいただき、また、保健師からは「歯科健診の再確認、さ

らに口腔の機能を維持向上するための体操をフレイル予防のなかに取り入れたい」という意見をいただきました。

山梨県において口腔機能評価を含めた後期高齢者歯科健診を実施している市町村は 27 中 8 市町村のみで、まだ少ないのが現状です。今後、後期高齢者歯科健診も含めて地域包括ケアシステムが進められているなかで、地域ケア会議などに学会員の先生方がかかわっていただけるように進めたいと考えています。



事業の一環である講演での一コマ

委員会だより

平成29年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業特任委員会

委員長 吉田光由

日本老年歯科医学会は標記補助金の受託を受け、「終末期を含む中重度の要介護高齢者における歯科医療及び口腔衛生管理ニーズの実態及び歯科医師、歯科衛生士の関与のあり方に関する調査研究事業」を実施しました。特別養護老人ホーム31カ所、老人保健施設8カ所、グループホーム1カ所で1,800名、また緩和ケア病棟5施設において患者86名を調査し、その結果、終末期に近づいた際の口腔内の状態はがん患者および要介護高齢者とも大きな違いはないものの、歯科による定期的な口腔健康管理が実施されている者は少数でした。治療の必要性はあるものの、治療にいたっていないケースが半数以上あり、これは、たとえば症状の訴えない残根や動揺歯の抜歯に関する基準が確立されていないことなどが原因の一つ

であることが示唆されました。また、義歯が必要な歯の欠損状態でありながら、義歯を使っていない高齢者に対して、義歯治療をすべきかどうかの判断基準についても、今後歯科医師側がある程度の共通の認識をもつ必要があるものと考えられました。そこで、認知機能に応じた義歯を含めた口腔内環境のあり方に関する共通の基準をつくり、それに従った口腔衛生管理提供体制を構築していくことが、中重度の要介護高齢者が施設や在宅で療養を続けていくための今後の課題であることを報告しました。

詳細は、学会HP「学会紹介」ページ内の「事業計画・事業報告」をご覧ください。本事業にご協力いただきました会員ならびに施設の皆様に、この場をお借りいたしました厚く御礼申し上げます。

専門医試験問題作成委員会

前委員長 渡邊 裕

日本老年歯科医学会の専門医制度は、高齢者に必要とされる歯科医療に関連する専門的な知識と診療技術を有する歯科医師を養成することにより、国民の健康と福祉の増進に寄与することを目的としています。専門医試験問題作成委員会は1年に1回、認定試験実施委員会が行う専門医認定試験の問題を作成する委員会です。専門医認定試験は1年に1回、代議員から多肢選択式の問題を作成提出していただき、それらを専門医試験問題作成委員会でブラッシュアップし、そのなかから分野に偏りがないよう50問を抽出し作成します。平成28年度に行った試験の平均は68点で、平成29年度は77点でした。

専門医制度は始まって約5年経過していますが、現在専門医は184名で、3,500名を超える会員のいる学会としてはまだ十分とはいえません。また地域の偏りも大きく、専門医の約半数は東京都、神奈川県、千葉県の間関所属となっています。会員の皆様、特に関東以外の機関に所属されている先生方にはぜひとも専門医の取得を目指していただきたいと思います。

最後に毎年試験問題を作成、ご提出いただいている代議員の先生方に、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

| 支 | 部 | だ | よ | り |

北海道支部主催セミナー

「第17回北海道口腔ケアセミナー」開催報告

北海道支部 山崎 裕
北海道支部では2018年5月12日(土)、北海道自治労会館にて「第17回北海道口腔ケアセミナー」を開催しました(参加者153名)。渡邊 裕先生(東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長)に「オーラルフレイル対策を通じて健康寿命延伸を考える」と題して、多くの調査研究を通して、オーラルフレイルの最新の概念と予防、対応に関してご講演いただきました。その後、歯科衛生士(兼ケアマネジャー)、看護師から在宅や特養での食支援の取り組みをご講演いただき、活発な質疑応答も行われ、実りのあるセミナーになりました。



会場全体風景

長野支部・上小学会共同開催報告

長野支部 西川 毅

2018年6月9日(土)、上田小県歯科医師会館にて、日本老年歯科医学会長野支部・上小学会共同開催が行われました(参加者53名)。下山和弘先生(東京医科歯科大学教授)に「高齢者の口腔健康管理—口腔機能の向上を目指す管理—」と題し、第1部高齢者の心身の特性(認知症)、第2部歯科治療と歯科疾患の継続的管理、第3部口腔機能の管理の3部構成でご講演いただきました。長野医療衛生専門学校(学生も参加したため、たいへんわかりやすく講演していただき、2018年4月に保険収載された口腔機能低下症の話も含め、高齢者歯科診療に必要な知識を共有でき有意義な時間となりました。

左：講師の下山和弘先生を囲んで
右：講演の様子

研究倫理の啓発② ～研究不正の種類にはどんなものがあるのか～

倫理委員会副委員長 大野友久

「こんな結果じゃないはずなのに…」 「データがうまく出なくて論文が書けない…」 など、研究には予想外がつきものです。しかし、だからといって研究不正をしていいはずがありません。倫理観の欠如した一部の研究者によって研究不正が引き起こされ、その結果研究に関する手続きが厳しくなり、他の研究者に大きな負担をかけています。したがって、研究不正は個人的問題ではなく、他研究者の活動を阻害し、ひいては国力を下げる結果にもつながるのです。研究不正をした研究者にはペナルティが待っています。研究費関連のペナルティは会員の大多数が無関係とは思いますが、周囲からの信用度が下がる影響は決して少なくないでしょう。

特定不正行為 (JST 資料より一部改変)
捏造: 存在しないデータ、研究結果などを作成すること
改竄: データや研究結果を真正でないものに加工すること
盗用: 他の研究者のデータなどを了解もしくは適切な表示なく流用すること
研究不正のペナルティ
研究費申請応募資格の喪失, 研究費の返還, 論文の取り下げ, 信用の失墜 など

学会だより

！各種認定資格の申請および更新の申請期限は 9月30日までです！

詳しくは学会ホームページでご確認ください。

2018年度 専門医認定試験:

2018年11月24日(土) 大阪歯科大学

2018年度 認定歯科衛生士専門審査:

2018年11月23日(金) AP品川(東京)

支部セミナーのご案内

★詳細は、学会ホームページでご確認ください。

愛知支部共催セミナー 「東海オーラルマネジメント研究会」

日時: 2018年7月22日(日) 13:30～16:30
会場: ウィンクあいち 小ホール
主催: 東海オーラルマネジメント研究会

奈良支部主催セミナー 「第5回在宅療養支援歯科診療所の施設基準講習会」

日時: 2018年9月2日(日) 10:00～12:00
会場: 奈良県歯科医師会館
主催: 奈良支部, 奈良県歯科医師会, 奈良県歯科衛生士会

鹿児島支部後援セミナー 「第2回摂食嚥下リハビリテーション研修講座 初級コース」

日時: 2018年9月5日～11月21日 期間中8回
会場: 鹿児島大学 医学部臨床講義棟

平成30年度 広島支部セミナー

日時: 2018年9月12日(水) 19:00～20:30
会場: サテライトキャンパスひろしま
主催: 広島支部

愛知支部主催セミナー 「口腔機能低下症について理解を深めよう」

日時: 2018年10月6日(土) 19:00～21:00
会場: 愛知学院大学歯学部末盛学舎
主催: 愛知支部, 東海オーラルマネジメント研究会

香川・岡山支部共催セミナー 「病院歯科介護研究会 第21回総会・学術講演会」

日時: 2018年10月6日(土) 9:00～16:30
会場: 岡山コンベンションホール
主催: 病院歯科介護研究会

第30回学術大会のご案内

次回の学術大会は、第31回日本老年学会(総会)との共催で仙台にて開催されます。皆様、ふるってご参加ください。

テーマ: 「食べる力を支える老年歯科医学」

演題登録期間(予定):

2018年11月15日(木)～

2019年1月7日(月) 正午

！例年より締切が早まります！



編集後記

今号では認知症義歯診療ガイドライン作成パネル会議、第29回学術大会等々をご報告します。本学会の活動も今年度保険収載となった口腔機能低下症の周知と、オーラルフレイルの社会運動化とともに益々多方面へ活発になっています。少しでもその傾向を感じていただけましたら幸いです。最後にご退任となりました前理事長 櫻井 薫先生、お疲れ様でした。ありがとうございました。新理事長にご就任されました佐藤裕二先生、引き続きよろしく願いいたします。(糸田昌隆)



発行人 佐藤裕二

編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp